

公益社団法人

日本山岳会

群馬支部報

第21号

2023年9月20日

2023年度支部総会

安全研修委員会を新設 副支部長に木暮氏 全国支部懇9月、みなかみ町で開催

日本山岳会群馬支部の2023年度通常総会が5月17日、前橋市中央公民館で開催され、23年度の事業計画案、予算案など6議案が原案通り承認された。山岳遭難事故が多発する現状をふまえ、組織的な安全登山対策を推進するため新たに「安全研修委員会」の設置が決まったほか、役員改選(任期2年)では支部長に根井康雄氏が再任され、副支部長には荒木輝夫氏の後任に木暮幸弘氏(自然保護委員長)が就いた。

総会には会員63人のうち20人が出席(委任状28人) した。冒頭、根井支部長があいさつし、「群馬支部 は創立10周年を迎えるが、会員数は発足時の3倍に 増えた。今後さらに組織を充実させ安全登山の基礎



をしっかりと固めた うえで、楽しい登山 ライフを皆さんと共 有したい。10周年に あたって本県で日本 山岳会の全国支部懇 談会の開催が予定さ れるなど、大きなイ ベントが続くが会員

の協力をお願いしたい」と呼びかけた。

22年度から立ち上げ準備を進めてきた安全研修委員会は、加藤博氏が委員長に就任。年間スケジュールに沿ってリーダー養成研修、安全登山のためのロープワーク、リスク管理、地図読み取り研修、新入会員のスキルアップなどを進めていく。加藤委員長は「豊富な経験を持つ先輩方々のノウハウや体験を若い世代に継承させたい。山行委員会と協力しなが



安全研修委員会の設置などが決まった23年度通常総会

ら多角的な研修、訓練を計画していく」として会員 の理解と積極的な参加を要請した。

23年度事業計画では、山行委員会が7月の上高地集中、10月の尾瀬合宿をはじめとする月一度の定期山行を予定。自然保護委員会は公益事業として8月に榛名山の沼ノ原で自然保護観察会を実施する。

10周年事業の一環として群馬支部が主催する第36回全国支部懇談会は9月23日(土)、24日(日)の両日、みなかみ町の水上温泉・谷川岳周辺で開催する。初日は講演会が開催され、群馬県警谷川岳警備隊長の伊藤武氏が「今、谷川岳で考える安全登山」と題して講演する。2日目は谷川岳を望む山麓ハイキングを行い、西黒沢~マチガ沢~一ノ倉沢出合を歩く。

このほか10周年記念事業として、8月に北海道支部の協力による「大雪山」記念山行、11月に「ネパールヒマラヤ・ダウラギリ方面」記念トレッキングを行う。記念式典の開催と記念誌の発行は次年度に予定している。

退任あいさつ

前副支部長 荒木 輝夫

群馬支部発足当初よりお世話になり、根井現支部 長と共に、会計、総務委員長、副支部長と微力なが らお手伝いしてまいりました。この度、家庭の都合 により退任となりましたが、今後もこれまで同様お 付き合いいただければ幸いです。

新役員あいさつ

新副支部長 木暮 幸弘

この度、副支部長になりました、木暮幸弘です。 どうぞよろしくお願いします。

2018年春、前職の上毛新聞社を退職するタイミングで日本山岳会に入会しました。入会を勧めていただいた根井支部長(当時は事務局長)が新前橋駅前の唐揚げが有名な居酒屋「うみんちゅ」で入会記念と称して飲み会を催してくれたことを今でもよく覚えています。亡くなった前支部長の北原さんもご一緒でした。その時、北原さんから言われた「自然保護委員長は木暮さんに」の言葉は忘れることができません。それまで北原さんが兼務していた自然保護

委員長を、まだ何の実績もないこの私に託してくれ たのです。酔った勢いもあって受けてしまった瞬間 でした。

自然観察会は「湯の丸山登山とミヤマシロチョウ観察会」(2021年7月)、「赤城山フラワートレッキング」(2022年5月)、「榛名・天目山登山と沼ノ原自然観察会」(2023年8月)と、これまで3回開催することができました。これもひとえに多くのみなさんのご協力のおかげと、この場をお借りして感謝申し上げます。今後は副支部長として支部長を支えながら公益事業でもある自然観察会を充実させ、群馬支部の発展に少しでも力になれればと思っています。今後ともみなさんのお力添えを切にお願いして副支部長としてのあいさつに代えさせていただきます。

なお、私事ではありますが、再雇用で5年間働いた上毛新聞社を今年3月末で無事定年退職、今年1年はとりあえず自由人でいようと思っていたのですが、縁あって6月15日から群馬県職員として林政課にお世話になっています。県庁方面にお出かけの際は17階におりますので、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

2023年度主な予定(群馬支部) 2023年5月時点

期日	行事名	場所
5月7日	支部山行 (三国峠)	古道調査、ファーストエイド
5月17日	群馬支部通常総会(第57回支部例会)	前橋市中央公民館
6月17日	支部山行(中倉山~沢入山)	ファーストエイド
7月2日	谷川岳山開き	
7月21日	安全研修	ファーストエイド
7月22日~23日	支部山行 (上高地集中)	上高地周辺数コース、山研宿泊
7月26日	第58回支部例会	前橋市中央公民館
8月11日	山の日イベントin谷川岳	
8月18日~21日	記念山行「北海道大雪山」	
9月23日~24日	全国支部懇談会	みなかみ町、谷川岳周辺
9月	支部報21号発行	
9月23日~24日	スカイビュートレイル	武尊山周辺
10月1日	谷川岳閉山式	
10月21日~22日	尾瀬合宿	尾瀬周辺数コース
10月21日~22日	ぐんま山フェスタ	高崎市
11月8日~	記念トレッキング「ネパールヒマラヤ・ダウラギリ方面」	
11月12日	支部山行(妙義山)	表妙義自然探勝路
11月15日	第59回支部例会	前橋市中央公民館
12月2日	日本山岳会年次晚餐会	
12月23日	安全研修(スキー教室)	
12月26日	支部山行(ラッセル訓練)	谷川白毛門
1月1日	支部山行(初日の出)	赤城長七郎
1月21日	安全研修(ロープワーク)	群馬こどもの国
1月	支部報22号発行	
2月3日	支部山行	太田金山周辺コース
2月22日	安全研修(雪の安全管理、アバランチ)	
3月4日	支部山行(スノーシューハイク)	玉原高原
3月21日	第60回支部例会	前橋市中央公民館

山行報告

白毛門ラッセル訓練に参加して

昨年12月27日(火)に白毛門への支部山行が行われた。昨年6月に日本山岳会に入会してから私にとっては初めて参加する支部山行であった。参加するにあたり、この時期ふわふわの新雪を白毛門山頂までラッセル訓練する、ということで『とんでもないことを計画する山岳会だ、半分行ければいいだろう』という気持ちと、逆に『山頂まで行こうとする奇策は何なのか』という興味と『久々の本格的ラッセルで自分の体力を知ろう』という目的があって参加を決めた。

朝7時にみなかみ水紀行館出発、ということで寝不足が持病の心不全を悪化させることから、ゆったりと前日は現地車内泊とした。『仕事納め前日の、しかも平日にどれだけ人が集まるのだろう?』との心配をよそに、翌朝6時半には皆さん集合し「おはようございます!」と元気にあいさつを交わした。皆さんこの日のために年休を取ってきたそうで、山にかける並々ならぬ情熱を感じた。ここから乗り合わせて土合山の家に向かった。

出発してから東黒沢を渡る時に膝までのラッセルが、急坂になってからワカンを付けていても腰まで潜るようになり、吹きだまりでは胸までのラッセルとなった。皆で先頭を交代しながら雪と格闘し、白



標高900m付近

銀の新雪と戯れた。

結局頂上までのおよそ1/3、標高1154mピークの手前まで登ったところでタイムリミットとなり、そこで昼食を摂り引き返したが、新雪との格闘技であるラッセルに久々に心が燃え、シーズン始めの充実したラッセル訓練を味わうことができた。皆さんお世話になりました。 (瀬沼 聡)

鍋割山と自然を楽しむ

2月の支部山行、雪山を楽しむコースの鍋割山へ 参加しました。

積雪を期待し昨年シーズン前に入手したスノーシュー持参で臨みましたが、登山道が南側ということもあり思いのほか積雪がなく、スノーシューの出番がなかったのが少しだけ残念ではありましたが、好天に恵まれ安全な雪山を楽しむことができました。

姫百合駐車場7:30集合、アイゼンを装着して8:00に出発です。パーティーはリーダー根井支部長を含む9名でした。

まずは1時間程登り、荒山高原を目指します。ここで小休止後、支部長より雲から天候を予測する講義を受け"天気を読む"ことが縦走する上で非常に重要であることを実感しました。

荒山高原から1時間程登り、尾根沿いに進むと右側には雄大な谷川連峰を望むことができました。また、途中積雪のあちこちに動物の足跡があり、メンバー同士で動物の歩行特徴(足の置き方)などの会話で盛り上がり、皆さんが良く知っていることに関



鍋割山へ続く尾根で

心し、あまり出会うこともない動物たちへの観察にもたいへん興味がわきました。

山頂に到着すると連日の好天により雪はなく、軽く汗ばむような気候のためか南側関東平野は軽く雲が掛かった様子でした。

皆さんの話では、秋口にこの鍋割山にテント泊すると、夕日、夜景、星空と文句なしの絶景が待っている!と聞きました。次回はぜひ、絶景の夜景を目指しチャレンジしたいと思います。 (武藤 雅美)

自然観察会&読図研修

玉原高原スノーシュー

3月5日(日)快晴。たんばらスキーパーク駐車場でスノーシューを着け、配布していただいた地図で現在地を確認し、進むべき湿原の方向を見定める。登山アプリは記録をとるだけにとどめ、地図を片手に周囲の地形を見ながら進んでいく。最初に見つけたオオカメノキの冬芽。まるでウサギの耳のような



なる場所とのこと。残念な思いとともに、スノーシューがあることにより山の楽しみが広がることを知った。トチノキの冬芽は、水飴状の樹脂に覆われアメ色に光っている。触るとベトベトしているし、キャラメルナッツのようにも見える。ウリハダカエデは、芽まで鮮やかに紅くて、よく目立つ。コブシの芽は、ふわふわした銀白色の柔らかな毛が陽射しに輝いていて、思わず触れてみたくなる。雪に包まれた静寂な自然の中で、植物はそれぞれ着実に春へ向けた準備をしていることを丁寧に教えていただいた。

尼ケ禿山を眺めながら、玉原湿原でランチタイム。 一面雪景色のなかで、10周年記念登山の話が弾む。 久しぶりの支部行事への参加であったが、いつもどおり温かく迎えてくださる先輩や仲間たちと味わう自然は格別で、思い出に残る1日となった。

(中村由佳理)

厳冬期の赤岳へ

2月23日、美濃戸登山口から、槇、星野、田中の 3名で赤岳山頂を目指した。12月も同じメンバーで 硫黄岳を目指したが、寒波襲来。赤岩ノ頭より先は 無理と判断し撤退した。手元の気温計は-18℃を指 していた。強風と合わせて体感温度はかなり低かっ た。噂通りの強烈な寒さを体感した。今回はその経 験を生かし、とにかく寒さ対策。途中の水分や栄養 補給も忘れない。迫る寒さを予想して重ね着を工夫 して臨んだ。赤岳山荘からは、目指す赤岳がきれい に見えた。予報では午後から天気が崩れる。行者小 屋(9:00)に着くと雪がちらつきはじめた。気温 -7℃。天気の崩れが予想より早いか。この夏に2 回赤岳を登ったが、その景色とはまるで違う。樹林 帯を抜けるとやはり強風。すれ違うたびに下山者に 山頂の様子を聞くと、「行けないほどではない」と のこと。メンバーの様子を確認する。私を含め前回 とは違い元気だ。ピッケルを刺し、つま先を蹴り込 みながら最後の壁を登りきり無事登頂 (2899m)。 数枚の記録写真を撮り即下山開始。稜線では、体が



山頂を目指して 2600m付近

浮くほどの強風にあおられ度々止まる。地蔵ノ頭が遠く感じた。そこから2500m付近まで一気に下り樹林帯に入ると、今までの風が嘘のように静かになった。絶景はお預けになったが、大自然のパワーを体感する忘れられない山行となった。 (田中 規王)

みちのくの山旅 Part 2

3月11、12日、昨年9月に続き、今回は雪の八甲田山、そして八甲田山の東隣にある黒森山を青森支部の須々田支部長と大久保さんに案内していただいた。初日はロープウェイ山頂公園駅から田茂范岳~八甲田大岳へ。ここは山スキーのメッカ。スキーヤー、ボーダーでにぎわう中スノーシューを履き出発。期待していたアオモリトドマツの樹氷は、数日前の暖かさで公園駅付近は溶けていた。標高が高い場所にはまだ残っており、迫力ある巨大モンスターを見上げながら登る。神秘的でとても愉快だった。山頂では、目の前の高田大岳、小岳が映えていた。下山後は酸ヶ湯温泉に浸かり1日を満喫した。

2日目は青森支部山行に参加し10人のパーティーで黒森へ。黒森は、雪のない時期には藪こぎになりこの時期が最適。スノーシューで最初はなだらかな道をブナ林に癒やされながら歩く。山頂直下は急登でかなり大変だった。山頂では、めったに見られないという八甲田の絶景が待っていた。そして下山後昼食。青森支部特製雪のテーブルで特製せんべい汁をごちそうになった。皆さんにおもてなしいただき心身ともに温まった。今回も天候に恵まれ、青森支部の方々、そして前田さん、川端さんのおかげで山旅を堪能することができた。 (星野 弘美)



モンスターを見上げる

NEWS

[速報·短信]

G-WALK+に上州健康増進山歩きコース

スマホを持ち歩くだけで歩数を自動で記録する群馬県公式アプリのG-WALK+(ジーウォークプラス)のバーチャルウオーキングコースに「健康登山塾:上州健康増進山歩き バーチャルコース」が加わった。

上毛三山を赤城、榛名、妙義と登り、さらに群馬県北部の県境をたどる。山道歩きでは平地の数倍のエネルギーを消費するので、歩幅は平地の1/3に設定され、合計は160km、平地換算で480kmとなる。

G-WALK+は毎日の体重・血圧や食事写真、 健(検) 診受診も記録でき、エクササイズ動 画やイベント参加などでポイントが獲得でき る。貯めたポイントで健康関連商品や体験型 クーポンが当たる抽選のチャンスも。アプリは iPhone、Androidに対応し、ダウンロードは無料。

八木原会員が叙勲

日本山岳・スポーツクライミング協会と群馬 県山岳連盟(現群馬県山岳・スポーツクライミ ング協会)の前会長で顧問の八木原圀明会員が 4月29日付で旭日小綬章を受章した。八木原会 員は1970年代のダウラギリからエベレスト南西 壁までの群馬県岳連のヒマラヤ登山をリードし、 日山協会長としては東京五輪の種目になったスポーツクライミングにも注力した。八木原氏は日 本山岳会群馬支部創立時の事務局長として、故 田中壯吉支部長とともに支部発展の礎を築いた。

6月23日には前橋の商工会議所会館で叙勲祝 賀会が開かれ、山岳関係者ら100人近くが八木 原会員の叙勲を祝った。



貫会会場和気あいあいとした叙勲祝

安全研修委員会 設立と研修山行

群馬支部に安全研修委員会が発足しました。

登山において毎年3000人近い人が遭難し、その約 1割が命を落としています。コロナ禍中にはいった ん減少しましたが、2022年からは登山目的の遭難数 はこれまで最高となってしまいました。当群馬支部 におきましても、リスクに対応する能力を高め遭難 を防止することは喫緊の課題となっています。

安全研修委員会は、安全登山のための基本的な研修を通して、安全快適な登山の基本を支部内外に広めるなどの役割を担います。

〈スタッフ〉

委員長:加藤博

副委員長:田中規王、岡田晶彦、浅海智子委員:根井康雄、小池千秋、中山達也、

前田文彦、木暮幸弘、木暮和子、 星野弘美、瀬沼 聡、岡田理恵、 武藤 守、武藤雅美、白石直子、

白石智大、清水智恵子

研修指導:根井康雄、中山達也、前田文彦、

瀬沼 聡

活動の具体的な内容としては以下の通りです。

- ・講師のための研修
- ・リーダーの育成
- ・安全登山のためのロープワークとリスク管理
- ・危急時対応技術 (ファーストエイド)
- ・地図読み研修と実習
- ・山の天気
- ・積雪期の安全管理
- ・ウエアやグッズのインプレッション
- ・県内の事故、遭難の検証と年間総括
- ・新入会員の育成

当面はファーストエイドなど身近に起こる問題から始め、委員会で順次検討し講師やマニュアルなどの体制が整いましたら、順次スケジュールに組み入れていきたいと思います。

本年初頭から以下のようなプレ活動を実施いたしました。

【当年実施研修】(2023年1月~)

2023年1月8日 雪上訓練

〈研修場所〉北横岳

〈研修内容〉積雪期の安全管理全般 アイゼン歩行 訓練 ストック、ピッケルの使い方 斜面での滑落 停止研修



滑落停止訓練

2023年1月15日・29日 ロープワーク

〈研修場所〉群馬こどもの国

〈研修内容〉ロープの収納と繰り出し チェストハーネスの仕方とさせ方 ハーネスの自己着用と他人への着用 斜面昇降のロープワーク フィックスロープの張り方 ツエルトの設置 各種ロープの結び方、繋ぎ方、さばき方



ロープワークの基礎を学ぶ

2023年3月5日 積雪期の地図読み訓練

〈研修場所〉玉原

〈研修内容〉積雪期の登山道が無い場合の地図読み スノーシュー歩行訓練 ルートファインディング



スノーシューを履いてルートファインディング

「実践知」(現場の知恵)という観点も含め諸先輩 の経験も研修会に生かしながら、会員の安全登山技 術と安全管理能力の向上を図る活動を実施いたしま す。

ただ今、委員会スタッフを募集中です。より良い 委員会に育てていけますよう、支部会員の皆様の積 極的な参加を期待しております。 (加藤 博)



想い出の山 47年ぶりの阿能川岳

中山 達也

記録を辿ると昭和45年4月末連休始めに友人と二人で阿能川岳に入っているが、雪が少なく藪で、三岩山付近で撤退している。その後気になっていたが47年経ってしまった。

この3月中旬、事前の天気予報は快晴、たどり着かなければ引き返すつもりで一人入った。

6時頃、登山口の仏岩ポケットパークの駐車場に着くと4台止まっていて、2台では登山の準備をしていた。その2組の後を追い6時半頃残雪を踏んで歩き出すが、どこでも歩けるので、すぐトレースを外してしまい踏み抜きをしながら7、8分余計な労力を使ってしまう。

さらに赤谷越まで行くと遠回りかと思い、適当に右の急斜面に取り付くが、これが両手を使う程の急斜面で失敗だった。後に地形図でGPSのトラックを見るとごく僅かのショートカットでガッカリする。

稜線に出ると所々夏道が出ていて、雪も締まり歩き やすかった。ヨシガ沢山を過ぎると、ほぼ雪道になる が、トレースがしっかりついていて、壺足で問題なく 歩ける。送電鉄塔下を過ぎ、鍋クウシ山は登りには気が付かずに通り過ぎた。三岩山手前の岩場では右(東)側の雪庇の上を歩くが、雪庇が落ちそうな所はトレースが岩や木の根を超えている。

結局アイゼンもワカンも使わずに三岩山山頂に立てた。北には阿能川岳のノッペリした山頂と、その向こうに谷川岳の双耳峰が両耳をピンと立てている。その左(西)にはオジカ沢ノ頭から万太郎山、仙ノ倉山と雪の屛風が一望の元にできた。時間はまだ10時前、十分阿能川岳に立てる。

三岩山と阿能川岳の鞍部を過ぎ、登っていくとスノーシューを着けた若者が一人降りてきたので、今日のトレーサーかと聞いたら「そうです」と答えたので、良いトレースで「壺足でここまで来れた」と礼を言うと片方のストックを高く上げて降りていった。

阿能川岳山頂には10時半頃着いた。先行した2組が、 周りの景色に見とれている。北から西には雪の屛風が 続き、東には遠く尾瀬の山々が白く輝き、さらに右に は武尊山が岩肌と残雪のコントラストを見せている。 西を向くと真近な小出俣山の左に遠く、佐武流山から 白砂山だろうか、白い峰々が遠望できる。

好天と良いトレースに恵まれ、47年ぶりに山頂に立 てた。



群馬の藪山の

中山 達也

【雨降山(大天幕ノ頭)】(1026 m) 川上村乙父・川和 2018 年 11 月中旬 2.5 万図 両神山

雨降山と言う山名は全国に8座あり、県内に3座ある。一番高い雨降山は、長野県川上村にあり標高は2156 m(日本山名事典より)。県内の雨降山では御荷鉾山系東端にある同名の山がよく登られているが、この雨降山は地形図に山名もなく、明瞭な道もない。さらに登った当日、山中で作業をしていた方々に聞くと「雨降山」と言っても分からず「大天幕ノ頭」と言うと納得された。

国道 299 号線を西進し道の駅「上野」を過ぎ、父母トンネルを抜け、乙父集落に入るとすぐ、神流川支流の乙父沢川沿いの林道が左(南)に分岐する。林道口には「乙父、乙父沢方面」の案内がある。すぐ丁字路になり右(南)に折れると、またすぐ左(東)に狭い作業道が分岐する。この道に入り、橋を渡り道なりに南から回り込んで登っていくと「小敷平」と呼ばれる広い農地に出る。貯水槽横に止めた(P)。

すぐ先に「黒部幹線 587号」と案内があり尾根に鉄塔が 見えた。電柵沿いに右(西)に行くと絶縁碍子の付いた出 入口がある。586号鉄塔を過ぎ、コンクリート製の調整池 横を行くと、当時伐採作業が行われていて、雨降山と聞く と誰も知らず、大天幕ノ頭と言うと、上の鉄塔を指さし「あ の上だ」と教えてくれた。指を差された鉄塔が「安曇幹線 223号」で、尾根を東から回り込んでいく。

広く伐採された東側すぐ下に「きのこセンター」の屋根が見えた。鉄塔から踏み跡が怪しくなるが、やがて石灰岩がゴロゴロした痩せた尾根になり傾斜が緩むと、突然地形図にない林道に出た。

これを横切り尾根を行く。また石がゴロゴロした登りとなり急登すると山頂に出る。



山頂の見晴らしは なく、三等三角点と 「大天幕ノ頭」と かれた小さなプレトがあり、結局かっ トがあり、結局かっ はどこにもなかっ た。登り約1時間10 分。黒破線は下りの ルート。

(注) 地形図、コンパス (GPS) は必携。現状 は分かりません。最 新の情報を確認して ください

事務局だより

〈2023年〉

- ■支部山行(長七郎山初日の出)(1/1 赤城・長七郎山)
- ■安全研修委員会・雪上訓練(1/8 北八ヶ岳・北横岳)
- ■安全研修委員会・ロープワーク研修1(1/15 太田・金山)
- ■支部例会(1/18 Zoom)
- ■安全研修委員会準備会 (1/18 Zoom)
- ■安全研修委員会・ロープワーク研修2(1/29 太田・金山)
- ■支部山行(雪上歩行)(2/18 赤城・黒檜山及び鍋割山)
- ■一般社団法人群馬県山岳・スポーツクライミング連盟設立 総会(2/25 前橋・群馬県庁)
- ■支部山行(スノーシュー・雪上の読図・冬の森の自然観察) (3/2 沼田・玉原高原)
- ■支部例会(3/15 前橋・元気 21)
- ■支部自然観察会(3/25 佐野・三毳山)
- ■支部役員会(4/19 前橋・元気 21 (Zoom))
- ■谷川岳プロジェクト実行委員会(5/15 みなかみ町)
- ■群馬県山岳団体連絡協議会会計監査(5/26 前橋・元気 21)
- ■支部山行・リーダー研修(6/17 足尾・中倉山)
- ■支部役員会(6/21 Zoom)
- ■安全研修委員会(6/22 Zoom)
- ■八木原圀明氏叙勲祝賀会(6/23 前橋・商工会議所会館)
- ■谷川岳山開き(7/2 みなかみ町・谷川岳登山口)
- ■全国古道会議 (7/5 Zoom)
- ■安全研修委員会・山の気象勉強会(7/8 前橋・国立赤 城青少年交流の家および長七郎山)
- ■上高地集中(7/22・23 上高地・山研)

■支部例会(7/26 前橋・元気 21)

- ■全国古道会議(8/2 Zoom)
- ■榛名自然観察会(8/5 高崎・榛名外輪山および沼の原 周辺)
- ■山の日イベント in 谷川岳(8/11 みなかみ・谷川岳周辺)
- ■妙義ビジターセンターオープン(8/11 富岡・妙義山麓)
- ■10 周年記念北海道支部との交流合同山行(8/18~21 北海道・大雪山系および札幌市内)
- ■安全研修委員会(8/24 Zoom)
- ■支部役員会(8/30)
- ■全国古道会議(9/6 Zoom)
- ■支部例会(9/20)
- ■全国支部懇(9/23・24 みなかみ・水上温泉)

- ■支部役員会(10/18)
- ■ぐんま山フェスタ(10/21・22 高崎・ビエント高崎)
- ■尾瀬合宿(10/21・22 片品・戸倉)
- ■県民登山(岳連)(10/29 桐生・仙人ヶ岳周辺)

阿部 博行 中村 拓巳 八尾 聡 原澤 修吉田 文江

日本山岳会群馬支部報 第21号 2023年9月20日

発 行:公益社団法人 日本山岳会群馬支部

〒371-0051 前橋市上細井町1200-7(根井方) https://shibu.jac1.or.jp/gunma/

発行者:根井 康雄 編集者:小池 千秋・萩原 哲

印 刷:上武印刷株式会社